

避難生活支援リーダー／サポーター研修の 今年度の取組について



令和5年9月15日



研修テキスト等の修正 — 研修テキストの主な修正内容

- 昨年度のモデル研修（5地区）の実施状況等を踏まえ、研修テキストとオンデマンド動画（事前視聴用）について、避難所運営時の具体的な対応例の記載を充実させるなど、一部修正を行う。

※昨年度のモデル研修参加者や地方公共団体の意見等を踏まえ、研修日数の短縮（3日→2日）とそれに伴う講義・演習時間の組み替え等のプログラム修正について、前回の会議で議論したところ。

テキストの主な修正箇所・内容

I 導入編

1. 避難所・避難生活における社会課題と現状
2. 本研修の目的と概要
3. 避難生活支援リーダー／サポーターの役割と必要な心構え

- 避難生活支援リーダー／サポーターの役割、求められる要素（気づき力、被災者の心情に寄り添う姿勢など）を追記（8P）
- 研修プログラム等を更新（研修日数の短縮など）（10-12P）

II 基礎編

4. 災害「支援」の基礎知識
5. 避難所・避難生活の基礎知識
6. 多様な被災者への配慮とニーズ対応

- 災害中間支援組織の意義・役割等を追記（47P）
- 高齢者が発症しやすい疾患例（エコノミークラス症候群など）を追記（59P）

III 実践編

7. 避難所運営の知識とスキル
8. 対人コミュニケーション
9. 支援者のセルフケア
10. 日常からの取組の重要性

- 具体的な対応のポイント・事例等を追記（85P-113P）
- 話し方・接し方のポイント（挨拶、相手のペースで話を聴くなど）を追記（114P-116P）

※このほか、分かりにくい表現・字句の修正、会議委員名の追記等を行う。



研修テキスト等の修正 — オンデマンド動画の主な修正内容

	項目	講師
1	人材育成の必要性（10分）	村上威夫氏（内閣府（防災担当）参事官）
2	支援者としての心構え、姿勢（9分）	栗田暢之氏（全国災害ボランティア支援団体ネットワーク代表理事）
3	災害「支援」の基礎知識（16分）	阪本真由美氏（兵庫県立大学大学院減災復興政策研究科教授）
4	避難所における基礎知識（12分）	辛嶋友香里氏（ピースボート災害支援センター） 関真由美氏（日本赤十字社医療センター）
5	被災者への配慮とニーズ対応（16分）	辛嶋友香里氏（ピースボート災害支援センター）
6	避難所運営の知識とスキル①（14分）	浦野愛氏（レスキューストックヤード）
7	避難所運営の知識とスキル②（15分）	浦野愛氏（レスキューストックヤード） 辛嶋友香里氏（ピースボート災害支援センター）
8	日常からの取り組みの重要性（21分）	三谷潤二郎氏（倉敷市人権推進室） 松岡武司氏（倉敷市社会福祉協議会）

修正

→ 過去の災害で実際にあった課題や具体的な対応例の説明を充実させるため、講義7「避難所運営の知識とスキル②」の再収録を行う

→ 講義1～6、8の表現・字句の修正を行う

参考動画の追加

→ 令和4年度モデル研修実施地区（長野県上田市・大阪府吹田市の自治体職員および受講者）の声を紹介する動画の新規収録を行う



令和5年度研修の実施予定

○ 令和5年度は、各県に公募を行った上で、以下10県（市町村）を選定

【注】「※」記載のある県は、昨年度(令和4年度)に続いて2年連続で研修実施

都道府県名	群馬県※	長野県※	静岡県	愛知県※	岐阜県	兵庫県	岡山県※	広島県	福岡県	熊本県
実施市町村	館林市	箕輪町	島田市	岡崎市	関市	三木市	瀬戸内市	広島市	嘉麻市	八代市
実施日(予定)	2/10(土)、 11(日)	2/3(土)、 4(日)	12/16(土)、 17(日)	1/20(土)、 21(日)	11/11(土)、 12(日)	2/17(土)、 18(日)	10/28(土)、 29(日)	6/17(土)、 18(日)	3/9(土)、 10(日)	10/14(土)、 15(日)
市町村の人口規模	7.4万人	2.5万人	10万人	38万人 (中核市)	8.5万人	7.5万人	3.6万人	120万人 (政令市)	3.3万人	12万人
参加呼びかけ予定の団体・組織	群馬県社会福祉協議会、館林市社会福祉協議会、日本防災士会群馬県支部、ぐんま地域防災アドバイザー(館林市在住者)、日本赤十字社群馬県支部、DMAT、DWAT、DPAT等の災害時支援チーム(所属医療機関)、館林市内の自主防災組織、館林市防災士連絡会等	自主防災組織(町内15行政区)、防災士連絡会、日赤奉仕団、町社会福祉協議会、町防災会議/避難所環境向上専門委員会、町消防団、長野県災害時支援ネットワーク(長野県社会福祉協議会、長野県NPOセンター、長野県生活協同組合連合会等)、日本赤十字社長野県支部、日本防災士会長野県支部等	県内各大学(静岡大学、静岡県立大学、常葉大学、聖隷クリストファー大学)、島田市社会福祉協議会、静岡県DMAT事務局、静岡DWAT事務局、災害ボランティアコーディネーター等	日本赤十字社、NPO、ボランティア団体、あいち・なごや強靱化共創センター、教育機関、企業等	清流の国ぎふ防災・減災センター、関市災害ボランティア連絡調整会議、岐阜県災害ボランティア連絡会、岐阜県社会福祉協議会、岐阜県共同募金会、岐阜県民生委員児童委員協議会、日本赤十字社岐阜県支部、岐阜県災害派遣福祉チーム(岐阜DWAT)等	兵庫県防災士会、三木防災リーダーの会、日本赤十字社兵庫県支部、ひょうご防災リーダー養成講座の修了者等	日本赤十字社岡山県支部、県及び実施市町村社会福祉協議会、日本防災士会岡山県支部、災害支援ネットワークおかもや、「災害時における被災者支援ボランティア協定」締結先16大学等	自主防災会、防災士、消防団員、大学生、中学生防災士等	防災士会、NPO、社協、ポラセン等	市登録防災士制度に登録のある防災士等

【済】

令和5年度研修（先行実施@広島）の実施報告

○ 広島県広島市において、令和5年6月17日、18日に本年度1回目の研修を先行実施。

実施概要

- 主催：内閣府 共催：広島県、広島市、安佐北区自主防災会連合会
 協力：山崎製パン株式会社、大和重工株式会社、広島文教大学
- 日時
 - 1日目：令和5年6月17日（土）10：00～16：00
 - 2日目：令和5年6月18日（日）10：00～16：00
 - 会場
 - 広島市立落合小学校 体育館（広島県広島市安佐北区落合南2-13-1）

研修講師

- 辛嶋 友香里氏 ピースポート災害支援センター／現地コーディネーター
- 浦野 愛氏 レスキューストックヤード常務理事
- 山中 弓子氏 親子支援・災害看護支援 てとめっと／看護師



研修概要

① オンデマンド講座の受講 ※令和4年度と同様の内容

1	人材育成の必要性	村上威夫氏（内閣府（防災担当）参事官）
2	支援者としての心構え、姿勢	栗田暢之氏（JVOAD）
3	災害「支援」の基礎知識	阪本真由美氏（兵庫県立大学大学院教授）
4	避難所における基礎知識	辛嶋友香里氏（PBV）、 関真由美氏（日本赤十字社医療センター）
5	被災者への配慮とニーズ対応	辛嶋友香里氏（PBV）
6	避難所運営の知識とスキル①	浦野愛氏（RSY）
7	避難所運営の知識とスキル②	浦野愛氏（RSY）、辛嶋友香里氏（PBV）
8	日常からの取り組みの重要性	三谷潤二郎氏（倉敷市）松岡武司氏（倉敷市社協）

避難生活支援リーダー／サポーター研修
 「災害関連死・ゼロ」を目指して
 災害時の避難生活の環境向上に貢献できる地域の人材を育成します

この研修では、
 ① オンデマンド講座（動画視聴）の受講と、
 ② 避難所運営演習（2日間）にご参加いただきます。

① オンデマンド講座
 ● オンラインシステムで、8コマ、1コマ20分程度の動画を、
 ● 動画視聴の開始前までに視聴していただきます。
 受講者としての基礎知識や役立つスキルについて、研修テキスト①の中からお役に立つ重要な点を学びます。
 ※研修テキスト、オンラインシステム動画URL、パスワードは、申込受付後事務局よりメールでお送りいたします。
 ※オンラインシステムでの動画視聴が難しい方は、安佐北区防災課までお問合せをお願いします。

② 避難所運営演習
 2日間の演習を通じて、避難生活の環境向上のためのスキルや被災者とのコミュニケーションの基礎などを学びます。

広島市立落合小学校 体育館
 〒739-1732 広島県広島市安佐北区落合南13-1
 ※駐車場

この研修は、内閣府「避難生活支援・被災者人材育成システム」の構築に向けたモデル研修として実施するものです。



令和5年度研修（先行実施@広島）の実施報告

2 避難所運営演習の参加

※3日間プログラムを2日間プログラムに見直しをして実施。開催時間も10:00～16:00に短縮。

1日目

(1) 開会等 10:00～10:30 (30)	○開会挨拶 ○オリエンテーション ・研修実施の背景、期待される役割等
(2) 講義1 10:30～10:50 (20)	○多様な被災者の理解とその配慮 ・被災地・被災者への理解 ・災害時における要配慮者の立場例
(3) 演習1 10:50～12:00 (70)	○被災者の心情や状況の理解 ・被災者の置かれている状況や心情、その背景を理解
12:00～13:00 (60)	休憩・昼食
(4) 講義・演習2 13:00～15:40 (160)	○講義：避難所の課題と生活環境の整備 ・避難所に必要なスペースとその機能 ・一日の流れ、活動内容、運営する上での留意点 ・運営に関わる担い手の理解 ○演習：避難所の課題と生活環境の整備 ・避難所のスペースを再現し、各スペースの改善点を話し合い、具体的な改善作業を行い発表、解説
(5) クロージング 15:40～16:00 (20)	・受講者同士のふりかえりとアンケート記入 ・2日目のアナウンス、閉会挨拶

2日目

(1) 講義・演習1 10:00～12:00 (120)	○対人コミュニケーション（講義） ・避難所におけるコミュニケーションの目的、基本 ○対人コミュニケーション（演習） ・「被災者役」「リーダー／サポーター役」「観察者役」の3つの役となり、コミュニケーションの仕方を体験。 ・グループでの演習結果を全体で発表・共有
12:00～13:00 (60)	昼食・休憩
(2) 講義・演習2 13:00～15:40 (160)	○運営の担い手との連携・協働の必要性 ・2日目午前中に検討したケースについて、「被災者と一緒に取り組めること」「被災者以外の運営の担い手と一緒に取組むこと」を話し合う ・グループで検討した内容を全体で発表・共有、解説
(3) クロージング 15:40～16:00 (20)	・講師からのコメント ・名簿登録・修了証について ・受講者同士のふりかえりとアンケート記入 ・閉会挨拶





令和5年度研修（先行実施@広島）の実施報告

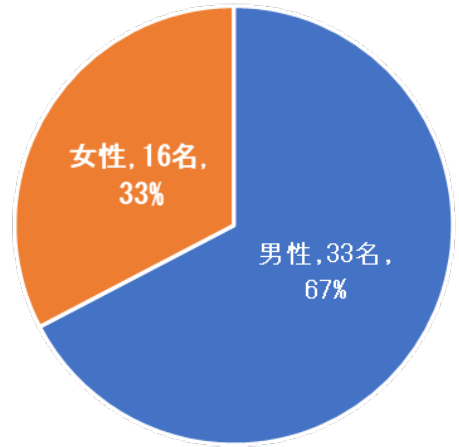
受講者数

受講者数 ※オブザーバー参加者含む (オブザーバー参加者除く数)	修了者数 条件：1.5日以上の参加	名簿登録者数 ※名簿の登録に同意いただいた方
51名 (37名)	35名	27名

※オブザーバー参加者：落合学区自主防災会（9名）、中学生防災士（5名）
オブザーバー参加者の他に、広島県、広島市、安佐北区の行政職員、安佐北消防、日本赤十字社（2名）等の関係者が参加

男女比

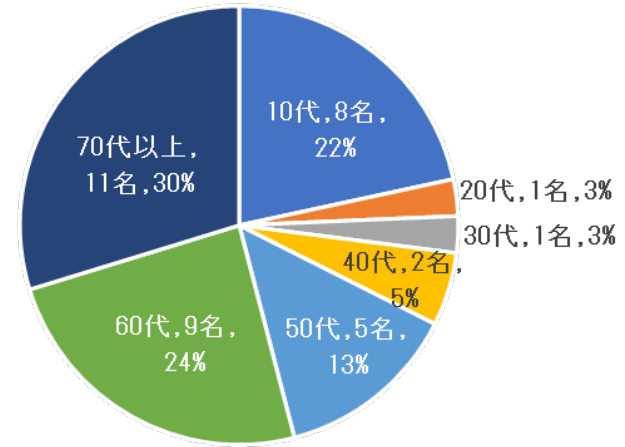
※N=49
オブザーバー参加者含む。不明の2名は含まない。



【男女比補足】
男性参加者が約7割を占める。女性3割の内、中学生、高校生がその半分を占める

年齢層

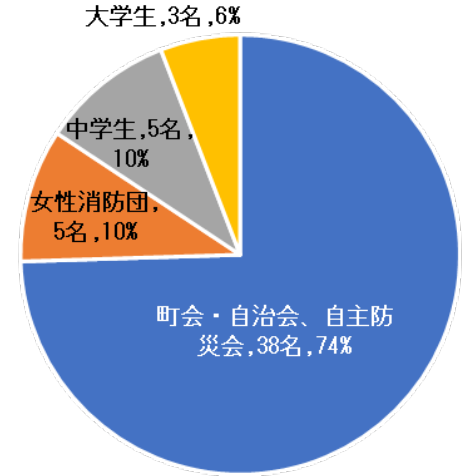
※N=37
オブザーバー参加者含む。不明の14名は含まない。



【年齢層補足】
全体の約5割が60代以上を占める。10代の8名の内訳は、中学生5名、大学生3名

属性

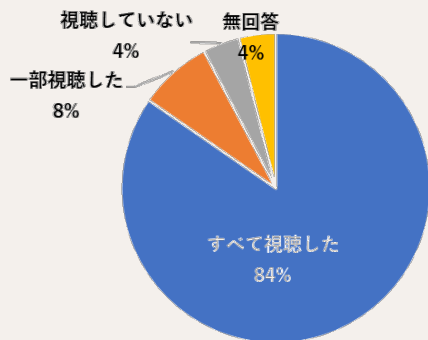
※N=51 オブザーバー参加者含む



【属性補足】
自主防災会からの参加が約7割を占め、その他女性消防団、大学生、中学生の参加があった

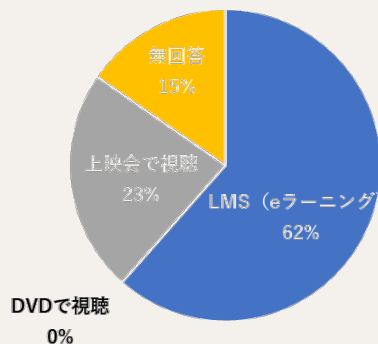
オンデマンド講座・アンケート結果

Q1 オンデマンド講座の受講状況についてお聞かせください



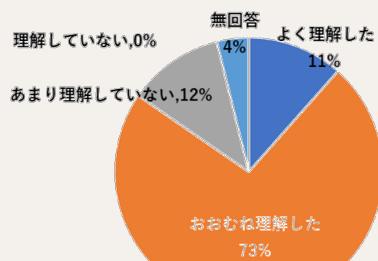
8割がすべて視聴したと回答。ほとんどの人が事前に視聴している

Q2 オンデマンド講座の受講方法についてお聞かせください

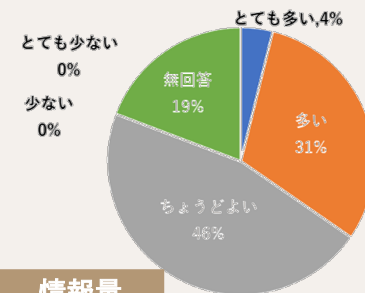


6割がLMSで視聴したと回答。2割は区で行われた上映会にて視聴している

Q3 オンデマンド講座の内容の理解度、情報量/長さについてお聞かせください



理解度



情報量

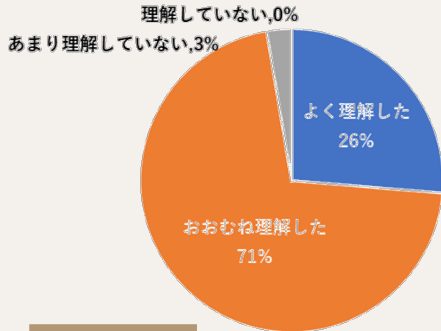
Q4 オンデマンド講座の印象に残った内容をお聞かせください

- 被災者に対する現実と対応の必要性を痛感した
- 避難所での生活の問題がテーマであり、災害に巻き込まれてケガをしないように身を守るためには日頃からのコミュニケーションが大切だということが印象に残った
- 避難所が「暮らしの場」となるため、避難所の環境を整えることが重要であるということが印象に残った
- 災害発生時の対応に公共機関等の公助の部分の重要性は大きいですが、各被災者の自助・共助の部分が多大であると感じた
- 日頃から防災活動に取り組む地域と、取り組んでいない地域では差があると感じた
- 避難所運営は入所だけではなく、退所後も何らかの支援が必要なことを学んだ。また、今回、様々な立場の方々と情報を共有し、交流を深めることができた
- 車イスの方が手伝って欲しいことを伝えたら、「ワガママ言うな」と言われたエピソードが印象に残った
- 避難所を出てからのサポートは難しいと感じた
- 災害支援の知識を深く学ぶことができた

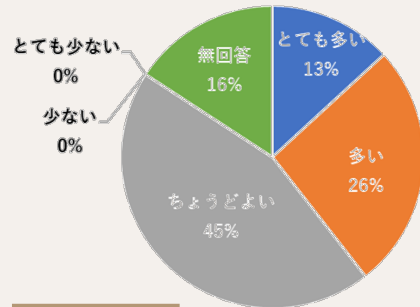


演習1日目・アンケート結果

Q1 1日目全体の内容の理解度、情報量についてお聞かせください

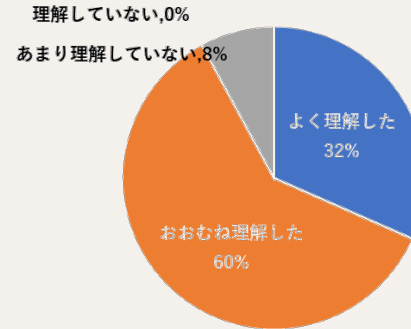


理解度



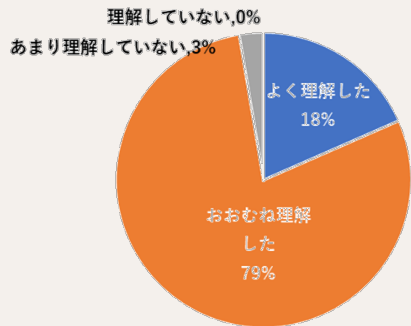
情報量

Q3 「演習1 被災者の心情や状況の理解」の満足度、印象に残ったことをお聞かせください



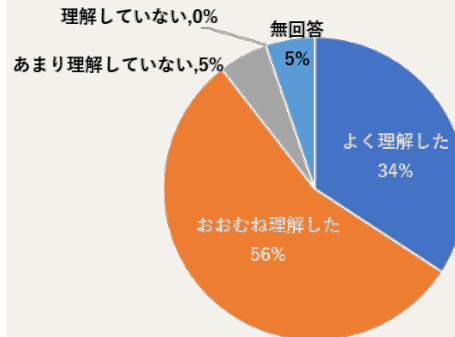
- 被災の心に寄り添い、一緒に考える
- 被災者の心情は少し理解できたが、高めるように努めたい
- 家族、家、色々心配事がある人ばかりなので、話を聞きながら一人ひとり対応したい
- 相手の立場に立って問題を考える重要性を学んだ
- 自分の母も足が悪く一人暮らしなので、色々考えた
- 演習では実際に自分で考え、表現することで内容が身についた

Q2 「講義1 多様な被災者の理解とその配慮」の満足度、印象に残ったことをお聞かせください



- 被災者の問題の聞き出し方が大事
- 自分で思っている事、気づいた事以上に避難者、被災者の方の思いは深いと感じた
- 様々な立場、状況の人が避難し生活するので、互いをリスペクトしなければうまくいかない
- 色々な方がいるので、決めつけずに寄り添う姿勢で接することを心掛ける
- 避難所のことなどいろいろ気づけないことが多く、学ぶことができて良かった
- 写真を見て避難者の方のリアルな生活にびっくりした

Q4 「講義・演習2 講義：避難所の課題と生活環境の整備」の満足度、印象に残ったことをお聞かせください

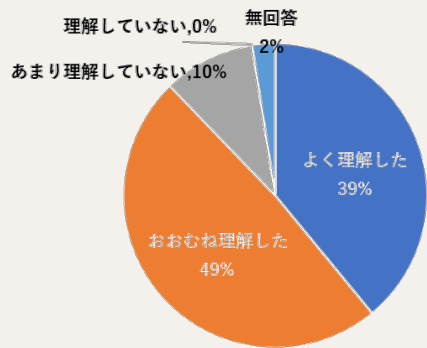


- 最初から閉所も考慮することが大事
- 主役は被災者ということ
- 臨機応変の対応が必要であると痛感
- 物資、受付など細かく分けて考えたことで、ちょっとしたことにも気づきやすく、避難生活をより良くするために色々工夫が必要だと感じた
- (情報コーナー) 伝えたい情報をわかりやすくして、運営者同士で確認することが必要だと思った
- “我が子”の心で課題を見つけ解決すること
- ゲーム式で楽しく勉強ができた
- 実際に改善に取り組めたのがよかった

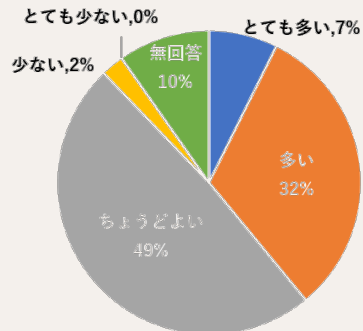


演習2日目・アンケート結果

Q1 2日目全体の内容の理解度、情報量についてお聞かせください

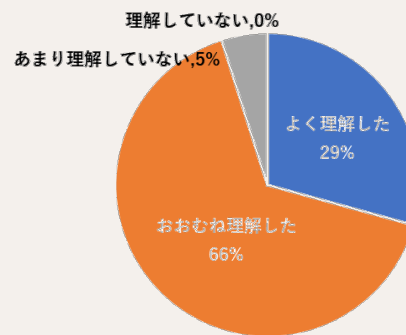


理解度



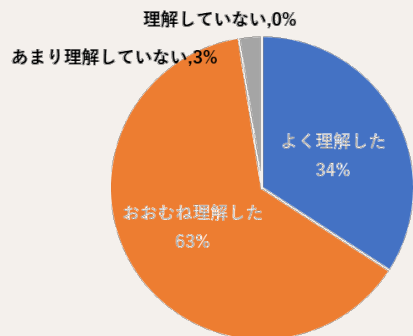
情報量

Q3 「講義・演習2運営の担い手との連携・協働の必要性」の満足度、印象に残ったことをお聞かせください



- 我々中学生が、協働して避難所の若い世代のフォローしていきたい
- どのような困り事があるからどのように対応し、機関や施設につなげていけるかの事例をもとに考えられた
- 解決策があまりないときに頼れるということが分かった
- 課題を見つけ整備する状況では、相手に提案できれば良いと感じた
- 避難者に声をかける際は決めつけではなく、問いかけるスタンスが大切である

Q2 「講義・演習1 対人コミュニケーション」の満足度、印象に残ったことをお聞かせください



- 被災者側をしてどんな思いなのかを考えることができた
- その人のその時の心情等に応じて、話し方を変え、相手と仲良くなり、困りごとを聞き出し、それでも質問攻めをしないよう、嫌な雰囲気にならないことが難しいと分かった
- 相手に聞く内容や何から聞くかによって、対応も変わり、相手に寄り添って話をしないといけないので考えることが多くて難しかった
- 人により1つのことの捉え方が違うので、コミュニケーションの大切さを学んだ

Q4 2日間の研修全体を通して、より理解を深めたい内容やプログラムがあればお聞かせください。他感想など。

深めたい内容

- コミュニケーションの上げ方、信頼度の上げ方
- 地域に外国の方がいる。日本語は片言。そういった方への支援、地域にあったサポートの仕方
- 中長期も勉強になるが、主に短期ばかりのため、そのあたり深めたい
- 自主防災のすそ野を広げていきたい
- 避難所の設営と運営についてもっと理解を深めたい
- 避難所内の各スペースの整備

感想など

- 参加者同士のコミュニケーションは深くなったので良かった
- 災害の起こらない日頃の行政、地域の仲が必要だと思った
- グループによる集団での取り組みが良かった
- グループで活動するという事は、とても重要なのでチームの団結力がついてよかった。2日目の対人コミュニケーションのプログラムが良かった



今後のスケジュール案



カリキュラム検討会・全体検討会

- 4月～6月: R5年度研修実施予定の報告(広島市の実績報告)、テキスト、講義動画の改訂の方向性 など
- 6/29開催: 検討チーム①
- 7月～9月: 9/15開催: 全体検討会①
- 9/1開催: 検討チーム②
- 9/1～9/15: テキスト改訂案の報告、講義動画編集案の報告、研修の調整状況報告 など
- 10月～12月: R5年度研修の実績報告、研修運営マニュアルの報告、次年度のスケジュール確認 など
- 11月～12月: 検討チーム③
- 1月～3月: 全体検討会②

研修テキストの修正等

R4年度研修アンケートの分析・改善検討

テキスト各省協議

テキスト改訂

講義動画収録

講義動画の調整

演習資料の調整

演習資料セット

R5年度研修アンケートの分析・改善検討

研修会の開催

講師養成研修

LS研修 (6/17-18 広島市)

オンライン講義(R5年度改訂)の配信

LS研修(9地区)(10月以降順次開催)

自治体向け研修運営マニュアルの作成

受講者フォローアップ

R4受講者のフォローアップ